

令和6年度『情報処理基礎Ⅰ～Ⅳ（数理・DS・AI教育プログラム）』 自己点検・評価

自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		情報処理基礎Ⅰ～Ⅳ（数理・DS・AI教育プログラム）の履修状況については、全学部で卒業必修科目としており、履修率は100%であるが、修得状況は95.8%である。 本プログラムの修得状況については、教務委員会（情報教育担当）において単位取得状況を分析している。
学修成果		本プログラムについては、習熟度別にクラス編成がされ、レベルに応じた教育を実施している。プログラムの履修者のうち95.8%が全科目を修得し修了している。学修成果については、試験、課題、授業アンケート結果や成績の分布状況を確認し、評価・改善につなげている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度		<p>本プログラムに関する授業アンケート(令和6年度)の一部を抜粋する。</p> <p>（5段階評価 評価5 強く思う 評価4 そう思う 評価3 どちらともいえない 評価2 そう思わない 評価1 まったくそう思わない）</p> <p>・あなたはこの授業を意欲的に受講しましたか？ 【評価平均】4.7</p> <p>・あなたはこの授業について、十分に復習をしましたか？ 【評価平均】4.3</p> <p>・あなたにとってこの授業を受講した意義は大きかったと思われませんか？ 【評価平均】4.4</p> <p>・全体としてこの授業に満足しましたか？ 【評価平均】4.8</p> <p>以上の4つの授業アンケート結果から履修学生の理解度および履修満足度が推察される。 また、自由記述欄にも「取っつきづらいデータ分析の話をかなりかみ砕いて教えてもらえた」「これからの時代を担う世代としてビッグデータの活用など、この授業で学んだことをうまく活用していきたい」「AIや情報分析の方法について学べて良かった」など数理・DS・AIの利便性や社会での有用性だけでなく、ネット上のトラブル回避、データを守る上での留意事項などを修得したコメントが多くみられた。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度		授業アンケートの質問項目に他の学生への推奨等を問う内容はなく、また、本プログラムが卒業必修科目であるため、自由記述欄にも本プログラムを推奨する記載はない。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		本プログラムについては、全学部において卒業必修科目と設定しているため、履修率100%である。
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		<p>本プログラム修了者の多くは2年次以降に、プログラムで学んだ情報収集能力、論理的思考、総合的な問題解決能力、およびプレゼンテーション能力などを生かし、専門教育科目だけでなくインターンシップ、各種実習、地域の課題解決のため行政・企業などとの共同活動など学内外で活動を行っている。</p> <p>本学ではインターンシップの受け入れ企業に参加学生だけでなく、就職している卒業生についてもアンケートを取っており、卒業生について8割を超える企業が知識・技能が高いと回答があった。このことから平成26年度から取り組んでいるICT活用能力育成を目的とした入学生へのノートパソコン配付事業および本プログラムの評価が高いことが推察される。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		先に述べた卒業生アンケート調査を分析し、本プログラム内容・手法等についても産業界の情勢を踏まえて、教務委員会でカリキュラムの見直し、改善を行う。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		<p>本プログラムは大学に入学するまでモバイル端末を主としてネット社会と接してきた入学生に、ノートパソコンを一人一台配付し、数理・データサイエンス・AIについて講義や実習を交え、通年で授業を行っている。</p> <p>数理・データサイエンス・AIがもたらす情報社会の未来や論理的思考やプログラミング能力を得る実習から学ぶ楽しさを提供している。また、データ管理、著作権などのトラブルなど学生の身近に潜むネット社会での法規制やマナー、モラルに関すること、実社会でのデータを基に統計的な分析や課題解決能力の習得から学ぶことの意義について考えるようにカリキュラムを組んでいる。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること		<p>学生からはクラスごとに実施している授業アンケートを活用し、授業の「内容」「進め方」「意義」「満足度」に関する複数の項目で確認している。このアンケートで得られた情報を授業担当者にフィードバックして授業改善等の対応を図っている。</p> <p>教務委員会では試験、課題、授業アンケート結果や成績の分布状況を確認し、また産業構造の変化や今後必要とされるスキルなど社会情勢などを鑑みて授業内容の改善を行っている。</p>